第二講　演習問題(2)

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

代明親王(よあきら)の御女の腹に、前少将挙賢(たかかた)・後少将義孝(よしたか)とて、花を折りたまひし君達の、殿(との)うせたまひて、三年ばかりありて、天延二年甲戌の年、皰瘡(もがさ)おこりたるに患(わづら)ひたまひて、前少将は、あしたにうせ、後少将は、夕にかくれたまひにしぞかし。一日がうちに、二人の子を失ひたまへりし母北の方の御心地、いかなりけむ、いとこそかなしくうけたまはりしか。

かの後少将は、義孝とぞ聞こえし。御かたちいとめでたくおはし、[A]年頃きはめたる道心者(だうしんざ)にぞおはしける。病重くなるままに、生く[ア]べくもおぼえたまはざりければ、母上に申したまひけるやう、「おのれ死にはべりぬとも、とかく例のやうにせさせたまふな。しばし法華経誦(ず)じたてまつらむの[a]本意はべれば、かならず帰りまうで来[イ]べし」とのたまひて、方便品(はうべんぼん)を読みたてまつりたまうてぞ、うせたまひける。[①]その遺言を、母北の方忘れたまふ[ウ]べきにはあらねども、ものも覚えでおはしければ、思ふに人のしたてまつりてけるにや、枕(まくら)がへしなにやと、例のやうなる有様どもにしてければ、え帰りたまはずなりにけり。後に、母北の方の御夢に見えたまへる、

しかばかり契りしものを渡り川かへるほどには忘るエべしやは

とぞよみたまひける、いかに悔しく思しけむな。

さて後、ほど経て、賀縁(がえん)b阿闍梨と申す僧の夢に、この君達二人おはしけるが、兄前少将、いたうもの思へるさまにて、この後少将は、いと心地よげなるさまにておはしければ、阿闍梨、「君はなど心地よげにておはする。母上は、君をこそ、兄君よりはいみじう恋ひ聞こえたまふめれ」と聞こえければ、Bいとあたはぬさまの気色にて、

②しぐれとは蓮(はちす)の花ぞ散りまがふなにふるさとに袖濡らすらむ

など、うちよみたまひける。さて後に、小野宮(をののみや)の実資(さねすけ)のおとどの御夢に、おもしろき花のかげにおはしけるを、うつつにも語らひたまひし御仲にて、「いかでかくは。いづくにか」とめづらしがり申したまうければ、その御いらへに、

昔は契りき　蓬莱宮(ほうらいきゅう)の裏(うち)の月に

今は遊ぶ　極楽界(ごくらくかい)の中(うち)の風に

とぞのたまひける。極楽に生まれたまへるにぞあなる。③かやうにも夢など示したまはずとも、この人の御往生、疑ひ申す

オべきならず。

（『大鏡』による）

（注）

○代明親王の御女―醍醐天皇の孫。恵子女王。
○花を折りたまひし―華やかな容姿であることのたとえ。
○殿―藤原伊尹（九二四～九七二）。挙賢・義孝の父。
○天延二年―九七四年。
○皰瘡―天然痘。
○枕がへし―枕を北向きに変えること。
○賀縁―俗姓・生没年未詳の僧。
○小野宮の実資のおとど―右大臣藤原実資。
○蓬萊宮―中国の伝説において、はるか東方の海上に浮かぶ蓬萊山にあるという宮殿。ここでは宮中のたとえ。

問一　波線部「あした」を、適切な漢字に直しなさい。

問二　傍線部ａ「本意」、ｂ「阿闍梨」の読みを、現代かなづかいで答えなさい。

ａ＝

ｂ＝

問三　傍線部Ａ「年頃きはめたる道心者にぞおはしける」、Ｂ「いとあたはぬさまの気色」を、それぞれわかりやすく現代語訳しなさい。

Ａ＝

Ｂ＝

問四　二重傍線ア〜オのうち、「意志」の意味で用いられているものを一つ選んで、記号で答えなさい。

問五　傍線部①「その遺言」について、次の問いに答えなさい。

（1）どのような内容か、三十字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

（2）義孝は、なぜそのような遺言を母に託したのか。その理由を簡潔に答えなさい。

問六　傍線部②「しぐれとは蓮の花ぞ散りまがふなにふるさとに袖濡らすらむ」について、次の問いに答えなさい。

（1）「蓮の花ぞ散りまがふ」とは、どのような場所の情景を示したものか。一語で答えなさい。

（2）「なにふるさとに袖濡らすらむ」とは、誰の動作か。本文中の語で答えなさい。

問七　傍線部③「かやうにも夢など示したまはずとも」における「夢」とは、この場合、どのような役割を担っているか。「……という役割」につながるように、本文全体の内容に即して説明しなさい。

第二講

〈模範解答〉

問一 朝

問二 a ほい　b あざり〔あじゃり〕

問三 A 長年この上なく熱心な仏道修行者でいらっしゃった

B たいそう納得のいかない様子

問四 イ

問五 （1）自分が死んでも普通の死者にするような葬儀はしないでほしい。（二十九字）

（2）死んでも現世に戻り、法華経を読誦したいという本願があるため。

問六 （1）極楽　（2）母北の方

問七 義孝が熱心に仏道修行に励んだ結果、たしかに極楽往生したことを示すという役割。

〈現代語訳〉

代明親王の御女〔＝恵子女王〕が生んだ、前少将挙賢・後少将義孝といって、華やかな容姿でいらっしゃった若君たちが、殿〔＝父伊尹（これまさ）〕が亡くなりなさって、三年ぐらいして、天延二年〔＝九七四年〕甲戌（きのえいぬ）の年、天然痘が流行した時に患いなさって、前少将は、朝に亡くなり、後少将は、夕方に亡くなりなさったよ。一日のうちに、二人の子を亡くしなさった母北の方〔＝恵子女王〕のお気持ちは、どうであっただろうか、実に悲しくお聞きしました。

あの後少将は、義孝と申し上げた。ご容貌がたいそう美しくいらっしゃり、長年この上なく熱心な仏道修行者でいらっしゃった。病気が重くなるにつれて、生きのびることができそうとも思いなさらなかったので、母上に申し上げなさったことには、「私が死にましたとしても、あれこれと通例の（葬儀の）ようにしなさいますな。しばらく（現世にいて）法華経を読誦申し上げ

ようという本願がありますので、必ず（この世に）帰ってくるつもりです」とおっしゃって、（法華経の）方便品を読み申し上げなさって、亡くなりなさった。その遺言を、母北の方が忘れなさるはずはないが、茫然自失でいらっしゃったので、思うに誰かがし申し上げたのであろうか、枕を北向きに変えたりなにやかやと、通例のような有様にしたので、（後少将はこの世に）帰りなさることができなくなった。後に、母北の方の夢に（後少将が）見えなさった（時）、

しかばかり……＝あれほど約束したのに、三途の川から帰ってくる間に（約束を）忘れてよいものか、いや、よくない

と詠みなさったが、どんなに悔しく思いなさっただろうか。

さてその後、しばらく経って、賀縁阿闍梨と申す僧の夢に、この若君たち二人がいらっしゃったが、兄の前少将は、ひどく物思いに沈んでいる様子で、この後少将は、たいそう気分がよさそうな様子でいらっしゃったので、阿闍梨が、「あなたはどうして気持ちよさそうでいらっしゃるのか。母上は、あなた様を、兄君よりもたいそう恋い申し上げなさるようだ」と申し上げたところ、たいそう納得のいかない様子で、

しぐれとは……＝時雨とは（極楽では）蓮の花が散り乱れる（ことである）。なぜ故郷（の母）は涙に袖を濡らして（悲しんで）いるのだろうか。

などと、詠みなさった。さてその後、小野宮の実資の大臣〔＝右大臣藤原実資〕の御夢で、（後少将が）美しい花の陰にいらっしゃったので、在世中でも親しく交際していらっしゃった仲で、「どうしてこんなところに。どこに（今いるの）か」と珍しく思い申し上げなさったところ、そのお返事に、

昔は契りき……＝昔は親しく交際した　宮中で月を眺めて。今は（一人で）遊ぶ　極楽世界で風に吹かれて。

とおっしゃった。極楽往生なさったのであるようだ。このように夢などで示しなさらなくても、この人の極楽往生は、疑い申し上げるはずがないのだ。